



報道関係各位

GE ヘルスケア・ジャパン、第 11 回「Signa 甲子園 2015」を開催
MRI の撮像技術アイデアやクイズを通じ、MR 診断の標準化とレベルアップを図る
～中村病院(福井 UM) 佐々木基充先生が金賞を受賞～

医療課題の解決に取り組むヘルスケアカンパニー、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社(本社:東京都日野市、代表取締役社長兼 CEO:川上潤)は、12 月 12 日(土)、MRI(磁気共鳴断層撮影装置)の先進的な撮像技術の共有を通じて、MRI 診断の標準化やレベルアップを図る「Signa 甲子園 2015」(MR Signa ユーザーズミーティング・全国大会)を下記の通り、開催しました。

MRI の画像は操作を担当する診療放射線技師や臨床検査技師のテクニックに依存する面が大きいと、当社では GE MR ユーザーがそれぞれの撮像技術の創意工夫などの情報交換や交流を行う「Signa ユーザーズミーティング」を全国各地で開催しています。また、さらなる交流を図り、操作担当者に先進的な撮像技術を身につけていただくために、2005 年よりユーザーズミーティング(UM)の全国大会である「Signa 甲子園」を実施しています。

11 回目となる今回の「Signa 甲子園 2015」では、約 170 名の全国の GE MR ユーザーの出席のもと、全国各地のユーザーズミーティングから選出された 10 名の代表が、コンテスト形式で実際の臨床に即応可能なアイデアを発表しました。結果、最優秀の金賞には、福井 UM、中村病院の佐々木基充先生による「すべて Signa におまかせ! ～呼吸同期腹部造影検査～」が選ばれました。また、過去の Signa 甲子園において発表された演題の中で最も引用数が多かった最優秀演題として、2013 年に「VR DWIBS のすすめ」を発表された神奈川 UM、けいゆう病院の五十嵐太郎先生に、さらには弊社 MR アプリケーショングループメンバーが本大会審査員と同じ基準で選出した最優秀演題として「アーチファクトは友達 片手で両手?高分解能,欲張り撮像」を発表された北九州 UM 新別府病院 加藤広士先生にそれぞれ大会特別賞が授与されました。表彰式の後には、Signa 甲子園2015の新企画として「SIGNA Master 選手権」が実施され、北里大学病院の秦博文先生と札幌医科大学付属病院の長濱宏史先生のお二人の司会のもと、MR にまつわるクイズコンテストが行われました。(当日の詳細は次ページをご参照ください)。

記

- 日 時: 2015 年 12 月 12 日(土)15:00～19:30
 会 場: TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町 プレミアムホール
 主 催: GE ヘルスケア・ジャパン株式会社
 企画・運営: Signa 甲子園 2015 実行委員会
 実行委員長: 札幌医科大学付属病院 鈴木淳平先生
 スケジュール:
- 全国コンテスト(全国 10 代表が発表)
 - MR 最新技術紹介
 - SIGNA Master 選手権
 - 表彰式
 - 情報交換会



「Signa 甲子園 2015」開催報告

「Signa 甲子園 2015」は 12 月 12 日(土)、TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町(東京)にて、約 170 名の GE MR ユーザーの参加のもと開催されました。今年の第 11 回大会では甲子園参加ユーザーの裾野を広げる試みの一つとして過去の甲子園で発表された演題を元にブラッシュアップされた演題に限定されたコンテストが行われるなど、新しい試みが数多く盛り込まれ、Signa 甲子園の良き伝統を継承しつつ、新たな甲子園の風を感じることができる大会となりました。

今年は全国 22 のユーザーズミーティングが予選に参加。その中から、Signa 甲子園実行委員会の厳正な審査のもと、10 名の代表が選抜されました。当日はこの 10 名の代表が、実際の臨床に即応可能な演題を次々と発表しました。全代表の発表終了後、各ユーザーズミーティングの審査員および会場の参加者が、各代表の「画質」・「創意工夫」・「臨床的実用性」を総合的に評価、さらに、事前に実行委員会を中心に審査された「再現性」を加点として加え、以下の通り 3 名の入賞者が決定しました。

金賞:福井 UM 中村病院 佐々木基充先生

発表演題:「すべて Signa におまかせ! ~呼吸同期腹部造影検査~」

発表要旨:高齢の方や全身状態が悪くて検査の息止めを行えない患者さんにおいてダイナミック撮像も呼吸同期法を用いて撮像することができる手法。動脈相・平行相などの多時相撮像がおこなえるので EOB の動脈相で問題視されている呼吸モシも軽減できる可能性がある。

銀賞:埼玉 UM 上尾中央総合病院 石川応樹先生

発表演題:「Off Center Shim より長方形 Shim でしょ!!」

発表要旨:仮想 Shim Volume として長方形 FOV で設定した 3D SPGR を活用し、マニュアルチューニングを行う手法。さらに、角度(オブリーク設定)も調整できるため、より磁場の不均一に影響を与える構造物を Shimming 領域から排除することができる。

銅賞:広島 UM 広島平和クリニック 佐々木公先生

発表演題:「Auto FURI Scan」

発表要旨:頸部、足関節などの領域は脂肪抑制効果が得られにくい。脂肪抑制がかかっていない領域と抑制効果が得られている領域の 2 箇所でもマニュアルチューニング(撮像した FURI)を行い、その中心周波数の平均値を使用することで良好な脂肪抑制効果を得る手法。

また、今大会では以下の 2 つの大会特別賞が設定され、表彰が行われました。

MCP 賞(Most Cited Presentation):神奈川 UM けいゆう病院 五十嵐太郎先生 / Signa 甲子園 2013

…過去の Signa 甲子園において発表された演題(114 題)の中で最も引用数が多かった最優秀演題

発表演題:「VR DWIBS のすすめ」… Signa 甲子園 2013 ご発表

発表要旨:呼吸同期併用 Coronal DWI の撮像条件を工夫して画像の歪みが小さい画像を提供。さらに Volume Rendering することで臨床価値の高い画像を得られる。

GE Application Selection 賞:北九州 UM 新別府病院 加藤広士先生

…GE MR アプリケーショングループメンバーが本大会審査員と同じ基準で選出しました最優秀演題

発表演題:「アーチファクトは友達 片手で両手?高分解能、欲張り撮像」

発表要旨:折り返しアーチファクトの特性を利用して両手指、手関節の高分解能画像を得ることができた。また撮像時の固定方法も手袋など身近なものを活用してユニークな手技である。

表彰式では、今回の「Signa 甲子園 2015」で実行委員長を務めた北海道 UM 札幌医科大学附属病院 鈴木淳平先生から入賞者に楯の贈呈が行われ、それぞれの発表に対してコメントをいただきました。

Signa 甲子園の大きな特長のひとつとして、全国の MR ユーザーの交流を深めることがあげられます。毎年、大会では全国様々な UM での情報交換を含め、ユーザー同士の親交が深められています。

また、もう一つの特長として、発表されたアイデアが大会後に MR ユーザーの各施設ですぐに活用できることです。特に今年の甲子園では“再現性”を重視しており、MR 装置のシステムバージョンに依存しないアイデアが多く発表されています。発表された内容は GE MR ユーザーの Community Site である『Signa・る』*で公開されます。この Web サイトで発表の様子が確認できるため、多くの MR ユーザーがさまざまなアイデアを臨床検査で活用できます。昨年の発表スライドに関しても現在、『Signa・る』で公開されています。この「Signa・る」は開設後 11 年で、約 3,000 名のユーザー登録を獲得しています。

*: Signa・る: https://gecommunity.on.arena.ne.jp/signa-l_entrance/index.html

最後に Signa 甲子園 2015 の第二部で開催された新企画・“SIGNA Master 選手権”をご紹介します。SIGNA Master 選手権は Signa 甲子園初の全員参加型イベントで、秦博文先生(神奈川 UM・北里大学病院)と長濱宏史先生(北海道 UM・札幌医科大学附属病院)のお二人の軽快な司会の下行われました。SIGNA MR(GE MR)にまつわる厳選された 2 択形式クイズが 10 題出題され、最後まで勝ち残った 12 名が“SIGNA Master”として表彰されました。SIGNA Master の方々には記念品として SIGNA Master ロゴ入りの ID フォルダが秦先生より渡されました。

当社ではこのようなユーザーズミーティングの開催を、MRI のみならず、CT や PET、核医学装置、超音波診断装置など他の製品群にまで拡大しているほか、開催地域を国内だけでなく世界各国に広げています。

当社では最先端の技術開発に努め、時代のニーズに合った製品を市場に投入していくとともに、複雑高度化する診断装置の性能をフルに引き出してもらえよう、ユーザーの方々のアイデアや工夫も共有しながら、顧客サポートにより一層注力していきます。



Signa甲子園2015受賞者

(写真左より)

五十嵐先生、佐々木公先生、佐々木基充先生、石川先生、加藤先生

Signa 甲子園 2015 の発表演題と発表者(UM : User's Meeting)

UM 名	演題名	所属名	演者名(敬称略)
北海道 UM	Subtraction TOF / マスクの覚醒	札幌麻生脳神経外科病院	濱口 明巧
新潟 UM	呼吸同期 EOB 肝細胞造影相, ここに極まる。	新潟大学医歯学総合病院	斉藤 宏明
埼玉 UM	Off Center Shim より長方形 Shim でしょ!!	上尾中央総合病院	石川 心樹
福井 UM	すべて Signa におまかせ! ~呼吸同期腹部造影検査~	中村病院	佐々木 基充
東京 UM	膝関節 - modoki のモドキ -	健康長寿医療センター	糸 一矢
神奈川 UM	beyond the Signa ~限界の向こうへ~	川崎幸病院	中 孝文
静岡 UM	やっぱり ET-SAP? - Delta Flow の弱点克服 -	焼津市立総合病院	宮崎 研一
神戸 UM	Dual coil を用いた脳血管動態イメージング	兵庫県立がんセンター	重永 裕
広島 UM	「Auto FURI Scan」	広島平和クリニック	佐々木 公
北九州 UM	アーチファクトは友達 片手で両手? 高分解能, 欲張り撮像	新別府病院	加藤 広士

GE ヘルスケア・ジャパンについて

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社は、世界が直面する困難な課題解決に取り組む GE ヘルスケアの中核拠点の1つとして、1982年に設立されました。国内に開発、製造から販売、サービス部門までを持ち、日本のお客様のニーズにお応えする、先端的な医療技術ならびに医療・研究機関向けの各種サービスをお届けしています。CT や MRI、超音波診断装置などの医療用画像診断から、体内診断薬、細胞解析装置などのライフサイエンス(生命科学)まで幅広い分野にわたる専門性を駆使しながら、GE の世界戦略「ヘルシーマジネーション」で掲げる「医療コストの削減」「医療アクセスの拡大」「医療の質の向上」の実現を目指します。2015年7月1日現在の社員数は約2,000名、国内に本社および54カ所の事業拠点。

ホームページアドレスは www.gehealthcare.co.jp (ライフサイエンス統括本部: www.gelifesciences.co.jp)。

<お問い合わせ先>

GE ヘルスケア・ジャパン (株) コミュニケーション本部 プランチャード/松井
Tel: 0120-202-021